

インフレリスクと闘うか？

市場リスクと闘うか？

(資産形成コラム)

ここ数年で皆さん、老若男女問わず物の値段が上がったことを実感されていると思います。物価上昇、所謂インフレ（インフレーション）です。それまで日本では長らくデフレ（デフレーション）が続き、失われた 30 年と言われてきました。2012 年 12 月の第 2 次安倍政権において、アベノミクスと言う経済政策が始まり、日本銀行と協力して年間 2%の安定した物価上昇・インフレを目指すようになりました。

ちなみに、日本銀行については中学校の社会？あるいは高校の現代社会で学んだように、日本銀行法にて日本銀行の金融政策の理念を「物価の安定を図ることを通じて国民経済の健全な発展に資すること」と定義しています。アメリカにおける中央銀行 F R B、ヨーロッパ連合の欧州中央銀行・E C B も、近年行き過ぎたインフレに歯止めをかけるために利上げ(金利の調整)を定期的に行って、物価の安定を図っています。


実はこの失われた 30 年の間にも、価格が上がっているものは結構あったんです。例えば、自動車で見ると日本を代表する大衆車の 1 つ、ト

ヨタのカローラは1966年に発売され、当時のベーシックモデルの値段は43.2万円。約30前の1995年の8代目カローラは91万円。そして2023年現在のカローラ・最も安価な価格で199万円。30年間隔でほぼ2倍になっていっています。もう一つだけ例を上げると、はがきの郵送費は30年前の1993年は41円で1994年に50円に値上がりしています。2023年現在は63円。30年間で約1.5倍になっています。他にも色々と値段が上がったものはたくさんありますが、数年前まではあまりインフレの実感がなかった理由、それは自動車のように頻繁には購入しないものだったり、近年ではハガキも年末の年賀状くらいしかまとまった量を買わないので、10円~20円程度上がっていてもそれほど気にならなかったからだと思います。インフレの定義は全てのモノやサービスの価格の加重平均によって決まるので、日々の主な消費である、食費や衣類等は価格が抑えられていたこともあり、トータルではデフレが続いていたという状況でした。

しかし、ここにきて食料品の度重なる値上げや水道光熱費の値上げ、感覚的にはありとあらゆるモノの値段が上がって2021年12月は対前年同月と比べて3.5%上昇、2022年12月は対前年同月と比べて4%の上昇。

(※比較対象期間が通年であったり消費税を除いた数値等あるため、上記のインフレ率は対前年同月時点での比較となります。) となり、冒頭で

書いたように皆さんも日々の生活でインフレを実感されていると思います。

ここからが今回のコラムの本題になります。今後も更にインフレは続くと仮定して、皆さんはこの**インフレリスク**にどのように対応していかれますか？会社での出世等による昇給、副業での収入アップ、一方で日々のお買い物・主に食料品の節約や、外食の頻度を下げる、電気代を節約するために少々暗い部屋で過ごしたり、暑い夏をクーラーなしで何とか乗り切ろうとしたり、様々な工夫が考えられます。どれもそれなりの努力が必要になりそうですね。いや、頑張るしかないのです。皆同じです。皆インフレに苦しんでいるのです。楽しんでいるわけではありません。4人の子どもを育てる私も必死なんです。「エイ・エイ・オー！！」と、時代錯誤的な号令をお伝えするためのコラムではありません。あくまでも資産形成コラムですので、世の中の流れとして起こっていて個人ではどうすることも出来ない、つまりコントロール出来ないインフレリスクと闘うのではなく、自分自身である程度コントロール出来る方法で、ストレスなく日々の生活を送っていただく1つの方法をお伝えいたします。

その方法が、タイトルにもある**市場リスク**との闘いです。市場リスク

とは、株式市場や債券市場などの金融商品に投資する際に被らなければいけないリスクであり、分散投資によっては消去不可能なリスクになります。

要するに、株式や投資信託、私が皆さんに提案し採用いただいている、自分自身も資産形成のメイン商品にしている変額保険や変額年金など、元本保証ではない金融商品の価格が、それぞれの市場での売り買いにより上下する現象のことだと理解してもらえれば良いかと思います。前述のインフレリスクと同様、個人的にはコントロール不可能ですし、そういった意味では市場リスクに打ち勝つ方法は同じく無いと言えますが、私がお伝えしたいことは、この市場リスクを受け入れて上手に付き合う中で、昨今の物価上昇に対応していく方法です。

以前のコラムにも書いたように、わが家の主要支出第1位は一昨年からは教育費になりました。しかし、今も資産形成は続けていて、その方法は以前もご紹介させていただきましたし、必要であればいつでも開示いたしますので、気軽に聞いてください。そして、いよいよ来年からは今まで数年から十数年、市場リスクと闘ってきた成果として構築出来た資産を使っていく時期になっていくと思います。ここからおよそ10年間、わが家の資

産は減少していくと思いますが、その減少のスピードを緩やかにしていく考え方も市場リスクとの闘い、上手な付き合い方で解決することが出来ます。市場リスクとの闘いで大切なことは、市場リスクを利用して資産を殖やすことです。殖やすために一番大切なことは、余裕を持つことです。特に、時間・期間に余裕を持つことです。具体的には、今始めた資産形成は10年先に実ると思って始めることです。それともう1つは、リスクを気にしないことです。リスクを気にしない方法は、積み立てをすることです。一般的にドルコスト平均法と言われる方法ですが、これをやっていると株価に代表される市場リスクをほぼ気にしなくて良くなります。その理屈はとっても簡単なので、いつでも聞いてください。リスクを気にしないと言う事の本質は、簡単な理屈を理解して噂やマスコミの報道等に感情的にならないことです。人生には喜怒哀楽は必要ですが、資産形成に感情を持ち込むと悲惨な目に遭うことは以前のコラム、アイザック・ニュートンの例でお伝えした通りです。

少し復習のような記述が多くなりましたが、決して避けられないインフレリスクに対して、収入増や節約等の努力で対応する方法を否定している訳ではありません。しかし、ストレス多く成果が少ない努力だとすれば

それを皆さんに勧めるよりは、市場リスクを自ら利用して先ずはストレスを軽減し、気が付いたら資産が殖えている状態を作る方を私はお勧めします。ちなみに、今後少子高齢化は一層進み、増税も含め国民負担は増えると思えます。正しい知識と仕組みで、あらゆる闘いを終わらせて明るい未来を共に歩みましょう。

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟